

古墳大国・群馬
その誕生と発展

古墳数1万基以上
地域の豊かさのシンボル

群馬県では、驚くほど古墳が日常的な存在だ。高崎、前橋、藤岡、伊勢崎、太田など平野部を中心に、至るところに古墳があり、住民にとって古墳のある風景が当たり前のものとなっている。それもそれは、県内で確認されている古墳数は1万3000基以上。今でも2000基以上の古墳が残っている。そもそも古墳とは何か？「古墳は墓にして墓のみならず」と説明してくれたのは群馬県立歴史博物館の深澤敦仁さん。

「古墳は死者を弔うための構造物です。でも決して一部の権力者



保渡田八幡塚古墳（高崎市）は、造られた当時の姿に復元されている。築造当時は葦石に覆われ、多くの埴輪が並べられていた。その壮大なスケールに思わず息をのむ。

語り部

群馬県立歴史博物館
深澤敦仁さん
学生時代に参加した黒井峯遺跡の発掘をきっかけに考古学の道に。同館学芸係長。



藤岡市教育委員会
文化財保護課
軽部達也さん
上信越道の建設にもたもう発掘調査に参加。以来、藤岡市で文化財保護に関わる。同課課長。



八幡塚古墳に併設のかみつけの里博物館では、古墳造りの様子をミニチュアで見ることができる。

だけのものではありません。さまざまな階層の人々が古墳を造っていました。では一体、どうやって造っていたのか？「労働者にムチを打って石を運ばせていた、なんてことはありません。地域のシンボルとして、住民参加で造られていたと考えられています」。墓であるはずの古墳がシンボルとはどういうことなのか？

「古墳を造るには高度な土木技術力と多くの労働力が必要です。

そういった力を集結させるには、ヤマト王権のみならず、地域住民からの信頼が必要だったでしょう。つまり、古墳を造るには、多くの信頼を得るために、地域に安定と豊かさをもたらすことが重要だったはずです」。古墳の築造技術を持った技術者を中心に、住民も参加して古墳を造る。「古墳造りを通して住民は地域に愛着を持

八幡塚古墳では、埴輪の造形を基に当時の儀式を再現するイベントが毎年秋に行われている。



ち、心を一つにする。完成した古墳はそのシンボルと言えるのです。だから「古墳は墓にして墓のみにあらず」なのです」。

群馬県内には東日本最大の天神山古墳（太田市）など、多くの大型前方後円墳がある。そしてその質と量は奈良や大阪と双壁と言っても過言ではない。「当時は複数の豪族がネットワークを組んでこの地域を治めていて、それぞれがヤマト王権とつながっていました。

た。そして、首長はもちろん、さらに狭い地域の有力者まで古墳を造っていました」。古墳大国・群馬。そのすごさは古墳造りの裾野の広さであり、その裾野の広さこそ、群馬県が東国文化の中心として栄えた証なのだ。

天神山古墳（太田市）は東日本最大の前方後円墳。●MAP C-3



上空から見た保渡田古墳群（高崎市）。100m前後の前方後円墳が近接した古墳群は東日本を代表する古墳群のひとつだ。

古墳の形と大きさ

<p>前方後円墳</p> <p>ヤマト王権によって全国に広められた古墳の代表的な形。 例：天神山古墳（太田市）</p>	<p>前方後方墳</p> <p>古墳時代前期に多く造られた形。東海地方より東に多い。 例：八幡山古墳（前橋市）</p>	<p>帆立貝形古墳</p> <p>前方後円墳のうち方形の部分が著しく短いもの。 例：女体山古墳（太田市）</p>
<p>円墳</p> <p>直径は10m～100mまでさまざま。中後期は群集墳を形成。 例：皇子塚古墳（藤岡市）</p>	<p>方墳</p> <p>7世紀には前方後円墳にかわって上位の首長の形になった。 例：宝塔山古墳（前橋市）</p>	<p>八角形墳</p> <p>7～8世紀の墳形。中国の宇宙観や仏教の影響を受けている。 例：三津屋古墳（吉岡町）</p>

謎解きキーワード

- ① ヤマト・地域の信頼
- ② 豊かな地域経済
- ③ 仏教の伝来と普及

現地に行って体感しよう

〈高崎市〉保渡田古墳群



5世紀後半～6世紀初めに造られた3基の大型前方後円墳からなる古墳群。八幡塚、二子山の2つは復元整備されている。かみつけの里博物館が併設されている。

●MAP B-1

かみつけの里博物館
高崎市井出町1514
☎027-373-8880
開9時30分～17時(最終入館16時30分) 休火曜(祝日は営業、水曜休)、年末年始、祝日の翌日 閉あり

〈高崎市〉観音山古墳



6世紀後半に造られた大型前方後円墳。全長97m。見事な石積みと横穴式石室を持ち、豪華な副葬品が出土した。出土品は全て国宝指定され、県立歴史博物館に展示されている。

●MAP C-2

高崎市綿貫町1752
☎027-226-4684
(県文化財保護課)
石室見学9時～17時(11月～3月は16時まで) 休年末年始 閉あり

〈藤岡市〉七輿山古墳



6世紀前半の前方後円墳。6世紀の古墳としては東日本最大級。出土した埴輪は近くの藤岡歴史館で見ることができ。

●MAP C-1

藤岡歴史館
藤岡市白石1291-1
☎0274-22-6999
開9時～17時(最終入館16時30分) 休年末年始 閉84台

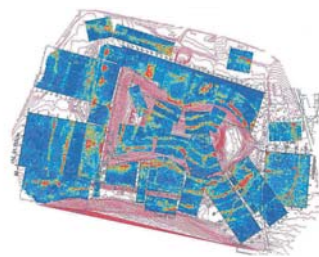
〈伊勢崎市〉お富士山古墳



全長125mの大型前方後円墳。最大の特徴は、「王の棺」といわれる「長持形石棺」。東日本では珍しい石棺で、現地で保存され全容が見られるのはお富士山古墳だけ。

●MAP B-2

伊勢崎市安堀町799
☎0270-75-6672
(伊勢崎市文化財保護課)
開終日見学可 休なし 閉なし



平成30年の地中レーダー調査で七輿山古墳の全長が150mということが判明。



6世紀末に造られた伊勢塚古墳(藤岡市)は「模様積」といわれる特徴的な石室を持つ。●MAP C-1

形や石室が時代で変化
世帯を超え守られてきた

5～6世紀にかけて各地で盛んに造られた古墳。特に6世紀後半は現在の藤岡地域に多く造られた。「この地域とヤマト王権とのつながりが強くなったためです」と解説するのは藤岡市教育委員会文化財保護課の軽部達也さん。

「6世紀、畿内ではすでに前方後円墳の築造は下火でした。そのような時代に造られたのが、七輿山古墳(藤岡市)です。墳丘長150mは、県内屈指の大きさです」。なぜ、大きな古墳が造られたのか? 「6世紀初め、藤岡地域に『緑野屯倉』というヤマト王権の直轄地が設置されました。七輿山古墳の築造はこのことと関係があると考えられます」。

同古墳は近年地中レーダー調査が行われ、横穴式石室の存在が確認された。「古墳の形と同じように石室にも時代の変遷があります。6世紀になると主流だった竪穴式に代わり、横穴式が普及します。横穴式は巨大石材を使うなど、より高度な技術が必要です。高い技術を持った職人が技術指導したという石室。その多彩さも群馬の特徴だ。「県内一の広さの石室を持つのが観音塚古墳(高崎市)。伊勢塚古墳(藤岡市)には模様積という特殊な石室があります」。

約350年間続いた古墳時代。仏教の普及とともに、大型古墳は造られなくなった。「でも、その後地域の人々は古墳の上に寺社やほころを造って大切な存在として守ってきました。だからこそ、現在でも多くの古墳が残されているのだ」。

七輿山古墳(藤岡市)は様々の名所としても有名。

TOPICS



ぐんま古墳探訪

県内の代表的な古墳や遺跡、関連する博物館を楽しみながら巡るアプリ。行きたい古墳をマップで探せるのが便利。

☎027-226-4696
(県文化財保護課)



android



iOS

歩いて、入って、登って
古墳探訪の楽しみ方

世帯を超え地域の人が大切に守ってきた古墳。現地に足を運んで、その魅力にぜひ触れてほしい。深澤さんに古墳の楽しみ方について聞いた。

「ポイントが2つです。まずはいにしえの技術力を感じてください。古墳の周りを歩けば、どれほど大きいか気づくはず。石室に入れば、どうやって石を積んだのか? その技術に驚くはず。そしてもう一つ。「古墳に登ってみてください。榛名山があり、赤城山がある。景色を眺め、風を感じて、当時の人の感覚を追体験してみてください」。

古墳の近くに副葬品を



保渡田八幡塚古墳(高崎市)は、墓石や埴輪も復元され、まさに造られた当時の姿を体感できる。

展示する資料館がある場合は、ぜひ立ち寄りたい。現在、残されている古墳は約2000基。まだ解き明かされていない謎も多い。現地に足を運び、謎解きに挑んでみよう。



© tenjou / PIXTA (ピクスタ)